

あかるいまち 21

No.1462 2021年11月27日
組合員活動推進課 082-532-1264

	11月	2021年度
組合員ふやし	142人	979人
出資金ふやし	1839万円	9345万円
純増	219万円	△409万円

廿日市市の健診担当者との懇談会実施

現在、福島生協病院をはじめ、生協内の医療機関では廿日市の自治体がん検診を利用することができません。乳がん検診に使用するマンモグラフィーが、今年3月に福島生協病院で新しく更新され、組合員の検診受診を広げようとの取り組みを進める中で、廿日市の自治体がん検診を生協の医療機関でも利用できるように申し入れしてみようということになり、11月25日に理事と健診担当者で、廿日市市の健診担当者と懇談を行いました。



子宮頸がんおよび乳がん検診の受託はすぐにでも可能ということを確認しましたが、肺がん・大腸がん・胃がん検診の受託は難しいというお返事でした。また、廿日市国保の方の人間ドックの受託はどうかと廿日市市の方から提案していただき、福島生協病院で検討していくことになりました。契約が実現すれば、廿日市市の国保加入の方には組合員健診と併用し、一層安い料金でご利用いただけることとなります。

その他、健康づくりに関する廿日市支部や生協の活動、および廿日市市の取り組みを交流する貴重な機会になりました。

「気候危機！～地球温暖化、打開の道と課題～」学習会

11月26日（金）講師に、日本地質学会会員・防災士の越智修二先生を迎えて、地球温暖化のしくみ、温暖化対策をどうすすめるか、そして広島に再エネ開発の問題点までボリュームたっぷりのご講演をいただきました。39名の参加でした。

参加者からは「生物が住める地球にするためのタイムリミットが少ない、成長経済から脱する社会システムの根本的転換が必要」「原発について考えていきたい」「温室効果ガスを詳しく説明いただいた」「ひさびさに中身の濃い学習会だった、来てよかったと本当に思いました。」「安芸太田にできる風力発電についてももっと勉強したい」「家庭、個人のCO2削減の努力はしていくが、大事なことは国のエネルギー政策の転換だ」との感想が出されていました。

